「まちづくり」に関する企画書

1　NGO、NPOを中心に新しい視点を生活に加える

2　芸術家を育てることによる活性化

3　住民参加型の映画作りによるまちの成長

「まちづくり」に関する企画書

① NGO、NPO

私たちの住む街は、単に物質的な体を受け入れるためだけの場ではない。
心がより善い方向へ成長してゆくための場であるべきだ。
その空間で日々何を考え、誰と出会い、どのような心の活性化がなされるだろうか。

受信から発信へ
競争から協力へ

知的好奇心を満たす場所。
インスピレーションを湧き起こらせる場所。

街の中には本屋、CD 屋、デパート、ギャラリー、広告、チラシ、車のナンバー、目立つファッション
くもの形、携帯の音、一つ一つ駅が持つ独自の空気、店から流れるにおい、高校生の会話、、、

さまざまなそれらが点在している。そしてそれらは公共の文化施設のものよりも生きている。
なぜなら、組織化、システム化されすぎたものは人の心がそれに負けて死んでしまうからだ。

新しく加えられる知的好奇心を満たす場として、非営利のNGOや、NPOがあげられる。
それらは自然発生的であり、動機が美しく、個々が創意工夫し組織という枠組みが後付けされたもので、さまざまな分野の人々が横でつながりあい、互いの力を自由に発揮しあえる可能性が残っている。

「癒し」のつぎにくるもの。

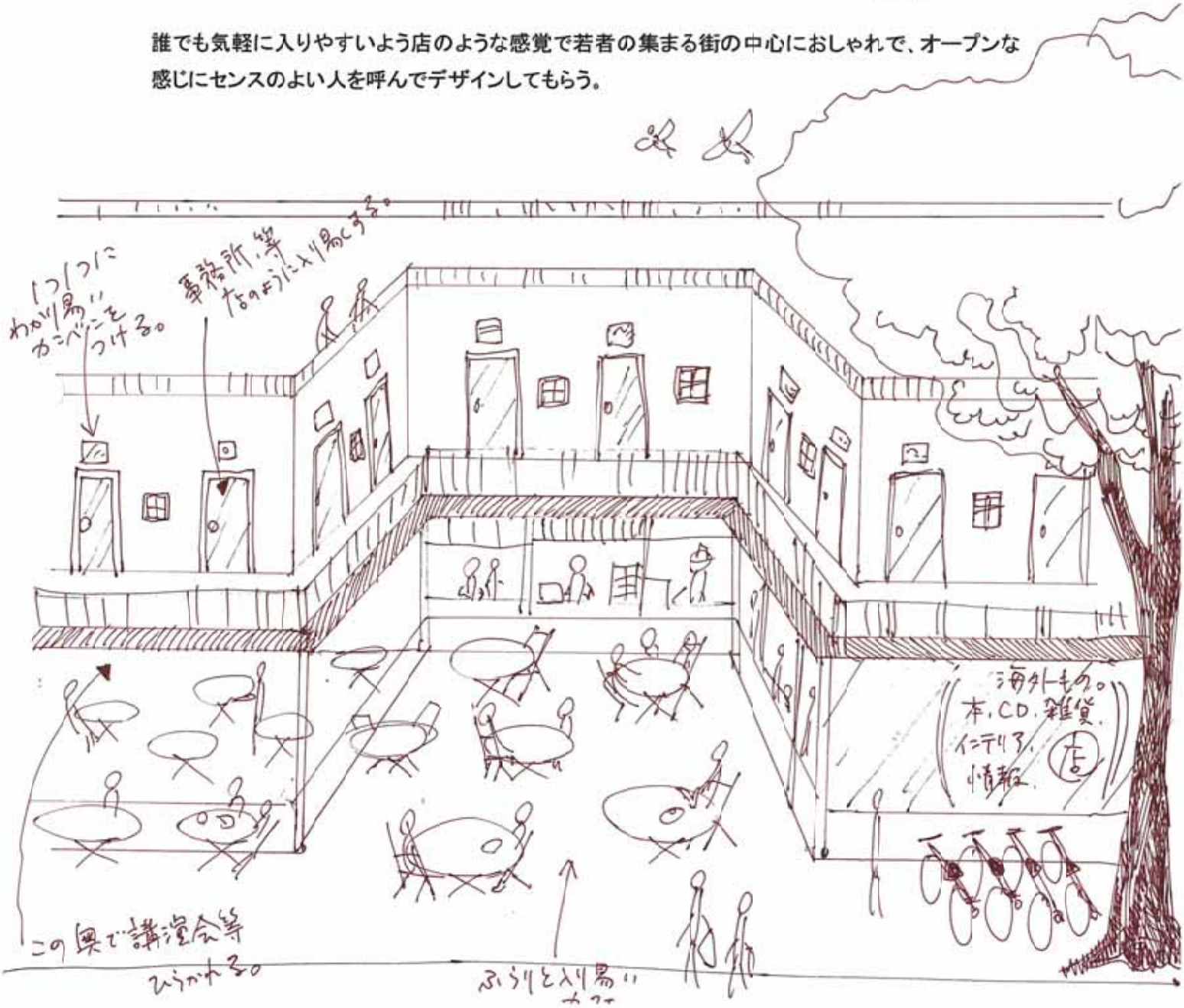
互いに成長してゆくうれしさ。視野を広げるよろこび。
「何か善いことをしたいな」という感情。
それを満たすための場所。

ボランティアや情報交換を、買い物や音楽を聴くように散歩がてらできるライフスタイルの一つに加えるのはどうだろうか。

そのようなわけで、以下のような提案をしてみたいと思います。

1　世界各国に関わる、もしくは専門的能力が際立つNGO、NPO の事務所を一箇所に集める。
2　あるていどの規模と実績と情報を持つ所にかぎる。
3　それらが、だれもが入りやすい各国の窓口のような役割を果たすように設計する。
4　現地の紹介にもなり資金稼ぎにもするためのショップをつくる。
5　各国の珍しいものを扱った食べもの屋、屋台、カフェを中庭につくる
6　講座や公演会ができる場をつくり、定期的にそれをおこなう。
7　安宿、格安チケット売り場なども近くにあるとよい。
8　自転車のレンタルができるとよい。
9　各国の旅人も集め、新鮮でリアルな情報が自然に入るようにする。
10　精神的国境を失わせてゆく無国籍な感じをここちよくつくる。

誰でも気軽に入りやすいよう店のような感覚で若者の集まる街の中心におしゃれで、オープンな感じにセンスのよい人を呼んでデザインしてもらう。



② 芸術家を育て、輩出するまちづくり

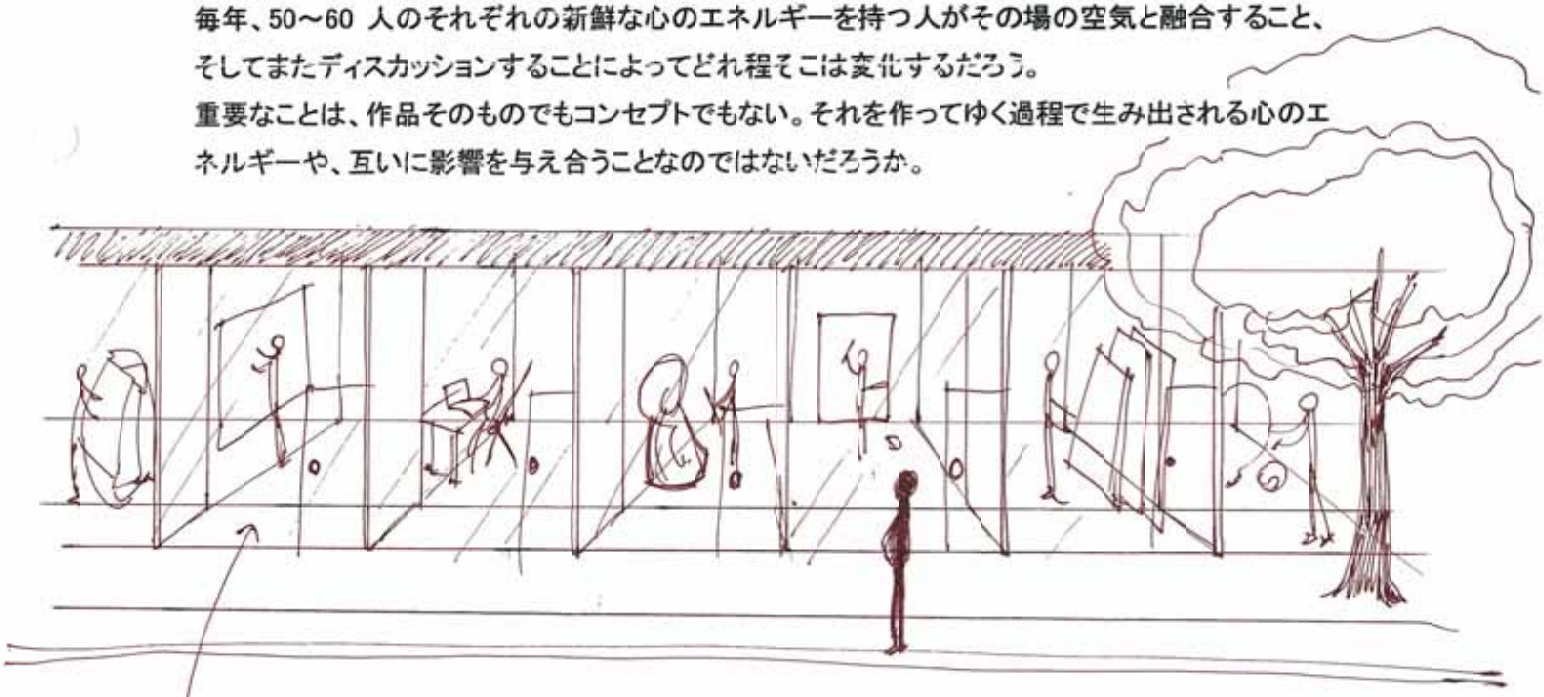
個性的な人間がその魅力を発揮できればできるほど人はうきうきし、街は活性化する。
しかし考えてみれば、学校以外に芸術家を育てる場所があまりにも少ない。

そのようなわけで、「芸術家を育てる街」を提案したいと思います。

好きなテーマ、興味が異なるキュレーター10人を選出し、呼び集める。
一人につき5～6人分の作家が作業できるアトリエを担当してもらい、チームをつくる。
それぞれが海外や国内から公募によって20代～30代の作家を選出する。
作家は、既に技術を持っている人で、若く、プロをめざすひと。ジャンルは問わない。
一年ないし二年と決めて、街に住み込み、還元する作品作りをしてもらう。
地元の工場や、企業の協力をスムーズに促すようつながり、働きかけてもらう。
アトリエは昼間公開され自由にだれでも見学できる。（見学されることでだらだらしない）
だれもが通りすがりに見学、作家との交流がしやすい場所をつくる。

それぞれのテーマで、それぞれの思想、内面の発表をする。

毎年、50～60 人のそれぞれの新鮮な心のエネルギーを持つ人がその場の空気と融合すること、
そしてまたディスカッションすることによってどれ程そこは変化するだろう。
重要なことは、作品そのものでもコンセプトでもない。それを作ってゆく過程で生み出される心のエネルギーや、互いに影響を与え合うことなのではないだろうか。



全面がガラスになっていて見学できる。

③ 映画づくりによる活性化

「さまざまな場所、国から集まった人々によるその街の映画作り」を、提案します。
定年後の元気な人々や、若者のエネルギーをよい形でまとめる。
ひとは、形にされないまま過ぎ去ってゆくさまざまなアイデアをたくさん思い浮かべる。
例えば、それぞれの得意分野を生かして映画を作ったら。
未熟なりに面白いものができるのではないだろうか。
そしてまたそれがローカルなものであれば、よりいっそう他にないものが出来上がる。

1 毎年、話題になる個性的な講師を呼び、一年間そこに滞在し、担当してもらう。

2 個性的な講師＞＞宇宙飛行士、環境運動家、建築家、思想家、生物学者、科学者‥と、
そのまちに生まれたときから住んでいる、世話役的地域密着型の人。
異分野の人々が同じテーマで考える。
3 定期的に、勉強会、講演会などを催しつつ映画にもその意見を取り入れてゆく。
4 映画のまとめ役、技術のスペシャリストを数人つける。
5 一年で一本つくり、毎年その場で発表していく。（講師によって新鮮な作品が作られ続ける）
6 若くてやる気のある芸術関係の人を幅広くあつめ、新しいアイデアを取り入れる
7 人々は、まちを映画によって表現されることで「私たちのまち」を異なる視点で再確認する。
8 映画が作られ、毎年見比べることを通して、知的発生が促進される。

映画が作られるまでの過程、そこに集まる人々もまたその場を活性化する。
そして、映画によって問題提起されたことが何らかの社会運動につながり、①のNGO、NPOなどの活動に還元されてゆくと、これらの計画が循環し、いい感じになるのではないだろうか。

以上、心の成長を促すまちづくりの提案です。
ご検討のほど、よろしくお願いします。